I-O DATA

第32期 環境報告書

−Operation and harmony symbiosis with nature−

事業活動と自然との調和共生を目指します

I·O DATA 第32期 環境報告書 –Operation and harmony symbiosis with nature–

社長メッセージ

事業活動と自然との調和共生を目指して

2008年7月開催予定の北海道洞爺湖サミットでは、地球環境問題が大きなテーマになると言われています。主催国となる日本の多くの企業におきましては、すでに弊社も含め、多くの企業が環境配慮製品の開発を始めとした環境問題への取り組みを進めています。

こうした中、弊社におきましては、「事業活動と自然との調和共生」を環境方針に掲げ、企業としてチームマイナス6%に参加し、弊社のあらゆる事業活動において、環境負荷を低減させるべく、日々努めてまいりました。

これらの環境に対する活動が評価され、『平成18年度いしかわグリーン企業知事表彰』を受賞することができました。

今後も、アイ・オー・データ機器は、環境への取り組みを始めとした、企業の社会的責任(CSR)を持続的成長実現のための基本であると認識し、社会の一員として、よりよい社会の発展へ貢献することを目指してまいります。

この報告書にはアイ・オー・データ機器が第32期に実施した環境保全活動の実績と今後の活動について紹介したものです。アイ・オー・データ機器の企業力を向上させていくためにも、皆様から忌憚のないご意見・ご指導をいただければ幸甚に存じます。

代表取締役社長 細野 昭雄

編集方針

当社では29期より環境報告書を発行し今回が4回目の発行となります。これまでは一部担当者のみが作成に携わっておりましたが、今回は事務局メンバーに加え他部署やお取引いただいている企業の方々にも協力を得ながら作成しました。

32期より当社環境活動も外部の評価を受けるなど成果が表れてきましたが、全ての社員に環境保全の意識が根付いている訳ではありません。ステークホルダーの皆様にご報告するうえで、まずは当社従業員がこの報告書を目にすることで、アイ･オー･データ機器全体の環境活動が向上することを目的としております。

今回は、全社の取り組みであるカイゼン活動や製品開発などの現場レポートを通じて身近な活動の中に環境保全活動に繋がっていることをお伝えし、日常業務の中に環境への関心や取り組みの意識が芽生えることを期待しています。

社外のステークホルダーの皆様には、このような実情も踏まえてお読みになっていただき、ご意見をお聞かせ頂ければ幸いです。

なお、環境に配慮し、印刷物は発行せず、ホームページでの掲載とさせていただきます。ご了承ください。

環境報告書作成プロジェクトリーダー
瀬古 睦哉

項目	内容
連絡先	ご意見、お問い合わせはこちらまで 住所：〒920-8512 石川県金沢市桜田町3丁目10番地 E-mail：environment@iodata.jp
発行月	2007年10月
次回発行予定	2008年10月
対象分野	環境、社会貢献
作成部署	技術支援部
対象範囲	株式会社アイ･オー･データ機器･本社　第1ビル･第2ビル
対象期間	第32期 2006年7月～2007年6月

主な環境目標と達成状況

32期環境目標と結果

No	部署	目標	目標値	実績値	評価	総評
1	事業活動で消費するエネルギー・資源（廃棄物）への環境配慮					
	全社	電気・灯油の使用量の削減(27期比CO_2換算)	5%	10%	OK	夏場は目標に対して満足な削減が見られませんでしたが、冬場は暖冬の影響も有り、大きな達成となりました。しかし、この達成量は単なる季節要因だけではなく、チームマイナス6%の活動がそれを大きく後押ししたものと思います。
	総務部	省エネ対策を実行し、電気・灯油などの使用量を削減する。	4件	4件	OK	吸収式冷温水機の本体を交換(1ビル新館側)、冷房・暖房の空調タイマー運転の促進、長期休暇時やライトダウンキャンペーン参加によるネオン看板の消灯、チーム・マイナス6%の活動推進を実行しました。
	総務部	廃棄物(不用物)のリサイクル化率の向上	80%	84%	OK	紙類分類の徹底などによりリサイクル率は、過去最高値を記録しており、廃棄物に対する意識に関しては良い傾向にあります。

No	部署	目標	目標値	実績値	評価	総評
2	購入品での環境配慮					
	総務部	グリーン購入対象品目の購入比率の向上	90%	90%	OK	プリンタートナーや文房具のグリーン購入の目標達成のほか、文房具の中古品使用率の向上、文房具品の統一などにより、新規購入自体を削減しました。
	技術支援部	製品環境情報を作成する	80%	92%	OK	新製品開発段階でのRoHS資料調査の強化や開発部門への教育を実施することで、製品環境情報の作成率を向上させました。
	資材調達部	グリーン企業調査票の回収率	72%	72%	OK	企業調査シートの回収は難航しましたが、Aランク取引先への発注が新規で発生することにより、目標を達成することができました。
	資材調達部	Aランク以上の企業からの購入金額の比率	10%	21%	OK	

No	部署	目標	目標値	実績値	評価	総評
3	設計での環境配慮					
	コモディティユニット	環境配慮設計事項の評価適合率の向上	60%	64%	OK	特にRoHS基準クリア、ハロゲンフリー・鉛フリーの基板や半田を使用することで、目標を達成しました。 また、海外からのOEM品に対しては個装箱、取扱説明書の使用インク調査や環境配慮設計基準を満たすリクエストを実施したり、再生プラスチックの調査をするなど、積極的に取り組みました。
	エンターテインメントユニット	環境配慮設計事項の評価適合率の向上	45%	55%	OK	
	液晶ディスプレイユニット	環境配慮設計事項の評価適合率の向上 (G,V,Cシリーズ 新ディスプレイ製品)	80%	96%	OK	
		環境配慮設計事項の評価適合率の向上 (新規ディスプレイ製品)	80%	91%	OK	
	メモリ ユニット	環境配慮設計事項の評価適合率の向上 (メモリーカテゴリ)	75%	88%	OK	
		環境配慮設計事項の評価適合率の向上 (USBメモリ&メモリーカードカテゴリ)	70%	75%	OK	
	ネットワーク ストレージ ユニット	環境配慮設計事項の評価適合率の向上	45%	60%	OK	
	法務・ 知的財産部	環境に関する特許の紹介＆ 啓蒙 (知財タイムズで 定期的に発信)	3回	3回	OK	『知財タイムズ』により、これまで社内に認識されていなかった、環境に関しての知的財産について意識を高める一助となる情報発信ができました。

No	部署	目標	目標値	実績値	評価	総評
4	販促での環境配慮					
	CS部	WEBやメルマガにて当社の環境活動を案内する。また、31期の環境活動報告書を制作し、WEBに掲載する。	6件	6件	OK	お客様にWEBやメールマガジンで定期的に環境活動を案内することによって、お客様とのコミュニケーションを図りました。

No	部署	目標	目標値	実績値	評価	総評
5	環境保全活動					
	技術支援部	環境保全活動を推進する。	7件	7件	OK	32期ではとくにチーム・マイナス6%に法人・会社登録することで、環境活動(ウォームビズ、クールビス、節水など)を推進しました。
	経理部	環境を考慮したシステム設計・導入、運用変更を行う。	7件	7件	OK	紙の使用量の調査や、帳票など電子化できるかの調査を実施し、電子化に向けてシステムの検討、修正、導入に努めました。
	生産管理部	組替オーダーの件数及び対象個数を集計する。	実施	実施	OK	組替オーダーの発生件数と対象個数を把握することで、傾向や多発する時期・状況などを分析しました。

社内体制

環境委員会について

当社では、環境保全活動の一環として各部の環境委員により環境委員会を月1回開催し、環境管理責任者を補佐しています。

環境委員会では、主に次のような活動を行っています。

(1) 環境側面の収集と環境影響評価の実施
(2) 法律・条令規制事項の審議と特定
(3) 化学物質・設備の環境影響評価の審議と特定
(4) 環境目的、目標実施計画の進捗状況の監視と環境管理責任者への報告
(5) 環境マネジメント規定類の作成と審議
(6) 全社と各部との間の調整
(7) その他環境管理責任者からの指示事項の遂行
(8) お客様の声や社内からの意見に対する対応検討

また、eラーニングを使ってISO14001や環境保全についての全社教育を実施しています。

環境委員会の様子

環境に配慮した製品開発

地球に優しい省エネ設計

液晶ディスプレイ「LCD-AD196Gシリーズ」は、環境に配慮した新省エネ機能「New ECOモード」、「節電モード」を標準搭載。機能的な省スペースデザインで、オフィスや教育現場に最適なスタンダードディスプレイです。

■無駄な消費電力をカット「節電モード」
パソコンの待機時、シャットダウン時に、ディスプレイの電源ボタンを自動オフします。
無駄な消費電力を簡単・確実にカットするので、省エネ効果が期待できます。

■省エネ効果がひと目でわかる「New ECOモード」
明るさを控えめに設定することで消費電力量を抑えていた従来の「ECOモード」機能。
これに加え、「ECOモード」で節電した分の省エネ効果をひと目で確認できる機能が加わりました。

オン 8W低減

▲ディスプレイの「設定メニュー」で確認できます。

省エネワット数をお知らせ！

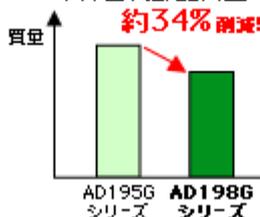
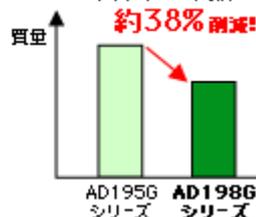
■低消費電力の省エネモデル
長時間使用でも安心の省エネ設計。通常使用時で26.1Wの低消費電力を実現。※弊社実測値

■環境に配慮した省資源設計
本体の使用部品を見直し、部品質量と点数を削減しました。
また、添付品、包装材を見直し、紙、プラスチックを大幅に削減しました。

＜本体プラスチック質量＞ 質量 約38％削減! AD195G シリーズ AD198G シリーズ

＜本体金属部品質量＞ 質量 約34％削減! AD195G シリーズ AD198G シリーズ

＜本体ネジ本数＞ 質量 約38％削減! AD195G シリーズ AD198G シリーズ

マニュアル（紙） 4点 → 1点

CD-ROM（プラスチック） 1点 → ゼロ ダウンロード提供

液晶ディスプレイ「LCD-AD196Gシリーズ」について詳細はこちら

開発者の声

液晶開発部ディスプレイ開発課　課長　鈴木 直樹

1.「New　ECOモード」、「節電モード」を開発するきっかけは？

これまでのECOモードは実際にどの程度節電できているのかお客様にアピールすることができておらず、省電力機能としては中途半端になっていました。

この問題を解決するためにECOモードを使用することにより、どの程度省電力となっているかをわかりやすく表示しようと考えたのがきっかけです。
この機能により、お客様も省エネ効果を実感しながら画面の設定が出来ると考えています。

また、節電モードに関しては、学校案件等パソコンが数十台置かれるような環境でパソコンをOFFにした時すべてのモニタの電源が待機状態になっていると電力ロスとなることから、パソコンがOFFとなると同時に自動的にモニタの電源をOFFしてほしいとのニーズに応えるために開発しました。

2.省エネを実現するために、どんな工夫・苦労しましたか？

電源の部品点数を減らすことや発熱によるロスを低減することで省エネ化を図っています。

製品内部の温度を下げることは、品質の向上につながると共に無駄な消費電力を抑えられます。
そのため、各基板、各部品において温度を下げるということを考えならが開発を行いました。
また、上記省エネ機能によって積極的に消費電力を抑制する工夫をしています。

3.アイオーが目指す、これからの液晶ディスプレイとは？

ワイド画面、高解像度はもちろん、TVチューナーなどの機能を付加することにより、便利で機能的な液晶ディスプレイをお客様にご提案するとともに、お客様により積極的に省エネ機能をご使用していただけるメリットを持った液晶ディスプレイを目指します。

また、省エネ設計を施すことにより電力消費を抑え、製品寿命も長く安心してご使用いただけるようにもしたいと考えています。

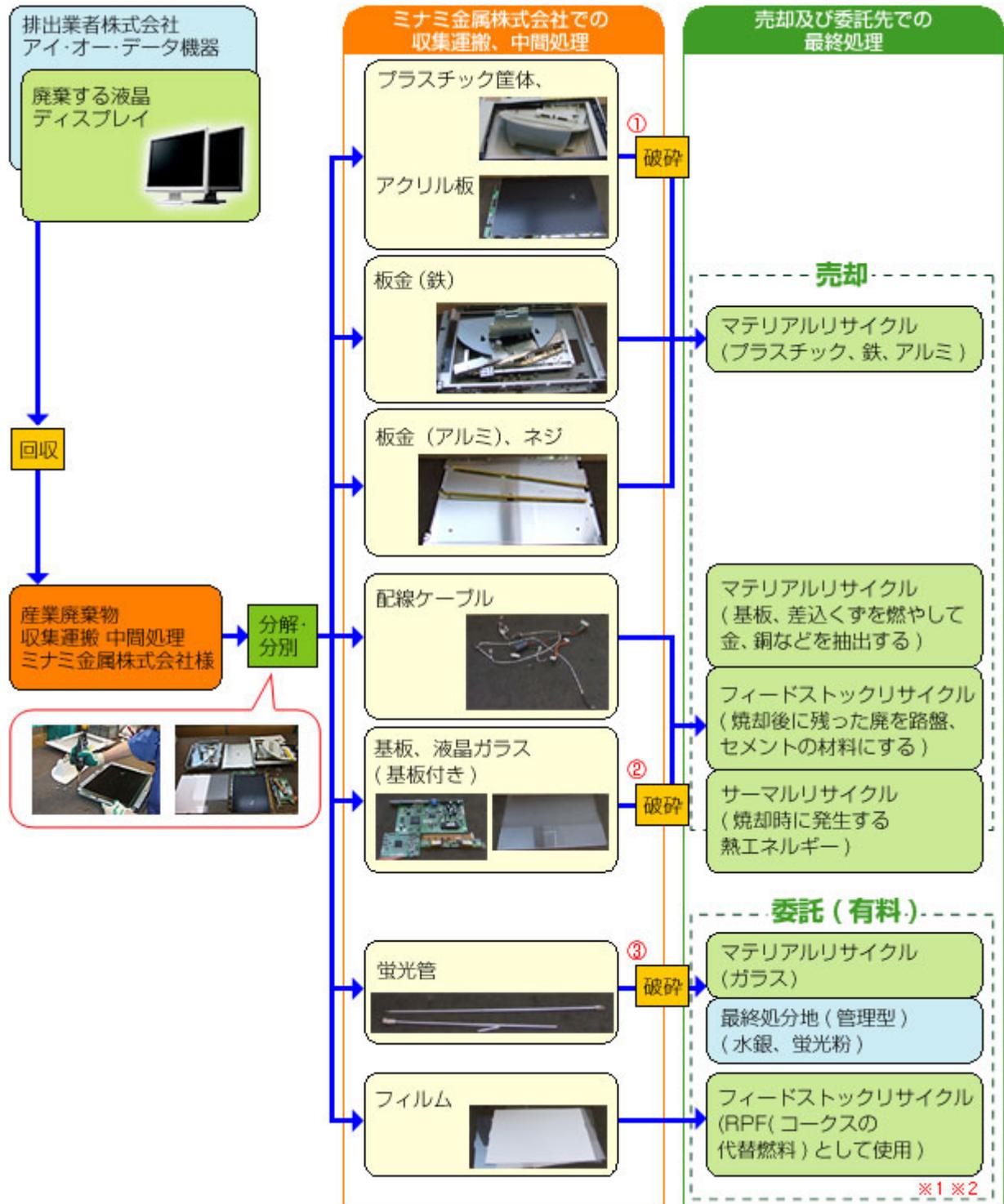
鈴木課長と開発メンバー　武田、吉田、都丸

リサイクルの仕組み

当社の産業廃棄物リサイクルの仕組み

液晶ディスプレイのリサイクル　現場レポート

当社では産業廃棄物をリサイクルするため、産業廃棄物収集運搬、中間処理業者であるミナミ金属株式会社様に委託・処理していただいております。

実例として、液晶ディスプレイ(当社製)のリサイクルがどのように行われているかをご紹介します。

今回、当社が排出した産業廃棄物がどのようにリサイクル処理をしているのか、見学させていただきました。

ミナミ金属株式会社様の最大の特徴は廃棄物(コンピュータ、コピー機、その他OA機器)を全て手作業で分解し、素材別に分別しています。プラスチック類、金属類、基板などに分別され、この時点でリサイクルできる材質、それ以外の材質に分けられます。手作業による徹底した分解、分別により、99%以上リサイクルを可能な状態にしていただいております。

※1 RPF
Refuse Paper ＆ Plastic Fuel の略称であり、主に産業系廃棄物のうち、マテリアルリサイクルが困難な古紙及びプラスチックを原料とした高カロリーの固形燃料

※2 コークス
石炭を高温乾留して得られる、多孔質で硬い炭素質の固体。火つきは悪いが無煙燃焼し、火力は強い。製鉄その他の鋳物やカーバイド製造の原料、燃料などに用いる。骸炭(がいたん)。

ミナミ金属株式会社様の見学もさせていただき、工程管理や整理・整頓が行き届いた作業現場となっており、手作業によって機械では出来ない細かい部分まで分解・分別が徹底されていて、リサイクル率が高いことに納得できました。また、全従業員一丸となって環境保全の取り組みに積極的に参加されており、環境に対する意識の高さに感動しました。

<取材協力：ミナミ金属株式会社様>

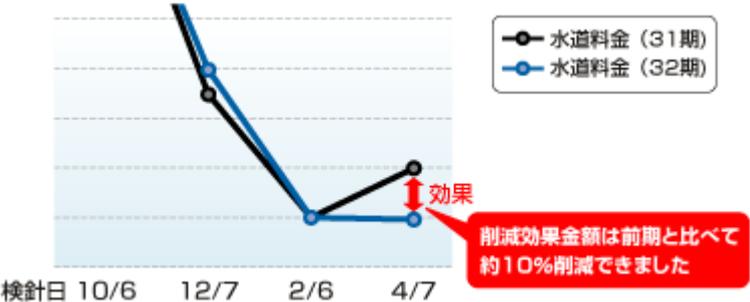
チームマイナス6%

アイ・オーはチームマイナス6%の環境活動に参加しています

当社は2006年12月にチーム・マイナス6%に法人・団体として登録するとともに、当社社長をはじめ、従業員も多数個人登録し、積極的に環境活動に参加しています。

＜活動内容＞

2006.12月	当社がチーム・マイナス6%に法人・団体として登録。
2007.1月	細野社長がチーム員に登録する。 ～社長メッセージ～ ここ数十年における、私たちの生活の利便性向上と引き換えに、私たちは地球環境を大きく変化させてきました。その変化に伴い、地球規模での異常気象が多発し、生態系や植生が大きく変わり、結果として私たちの生活に大きく影響を与えています。このかけがえのない地球を、次の世代、その次の世代へ･･･と永遠に受け継いでいくためにも、今私たちが地球環境を守るためにできることを、身近なところから行動することが重要であると考えております。 詳細はこちら
2007.1月	WARM BIZ　開始 同時に昼休みの消灯を徹底する 実施方法 各フロア、各営業所にて毎日12:00に照明スイッチと室内温度を確認し、状況に合わせて空調スイッチの調整を行い「地球温暖化防止活動カレンダー」に記入する 足元と頭のあたりの2箇所で温度を測定し、暖房の使い方のコツを案内する。(下記グラフ) 曜日毎の平均気温（技術支援部 3F、1/9～2/2） 30 25 20 15 10 5 0 部屋の上の方と足元の温度差が大きいと、頭がぼ～っとするのに足元が寒いという状況に。この解消が課題。 WARM BIZ(IO)の設定温度(22℃) WARMBIZ 月曜日 火曜日 水曜日 木曜日 金曜日 室温（床上 166cm） 室温（床上 55cm） 外気（金沢気象台）

2007.1月	**本社 トイレ手洗い場の蛇口の元栓を少し絞ることによる節水開始** 4月には前期の同じ時期の水道料金と32期の水道料金を比較し、節水の効果を案内した。 水道料金（31期） 水道料金（32期） 効果 削減効果金額は前期と比べて約10%削減できました 検針日 10/6 12/7 2/6 4/7
2007.2月	節水、アイドリングストップ、チーム・マイナス6%に参加していることを案内する各種ポスターを配置 ココ! ココ! ココ!
2007.6月	本社　6月22日から24日までビルのネオン看板を消灯する。また、全社において6月22日はネオン看板だけではなく、社屋内照明や動力についても節減のため、「特別ノー残業デー」として、定時退社推進日とした。 ブラックイルミネーション2007 ブラックイルミネーション ポスター（社員玄関） 本社1ビル 本社第2ビル

カイゼン活動ー環境編ー

業務内の問題を発見しカイゼンする

当社では31期よりカイゼン活動【自主的に業務のあり方を考え、問題を発見し、自分たちで解決する活動】を実行することによって、常に業務効率の向上、問題発見・問題解決のトレーニングに努めています。
初年度の31期は369件に対し、32期は616件のカイゼン報告がありました。
その中でも「環境」に関係するカイゼンも報告されておりますので、一例としてご紹介いたします。

清掃用洗剤の見直し

カイゼン前	本社ビルの清掃用として、現在、用途別に5種類の化学洗剤（塩素系含む）を使用 メリット：洗浄効果が高い デメリット：手あれ、臭気による頭痛、気分が悪くなるなど、人体への悪影響
カイゼン内容	化学洗剤を、人体や環境にやさしい重曹にかえて効果を試したところ、洗浄と消臭効果など、日々の清掃には問題なく使用できることが解りました。しかし、著しい汚れや、定期的な漂白など全てを代替することはできませんので、必要にあわせて化学洗剤と併用していくことにしました。 **＜＜重曹使用の範囲＞＞** 廊下の床、壁面、トイレ、リフレッシュ洗い場など清掃箇所ほぼ全域 【参考】重曹（炭酸水素ナトリウム）の働き･･･中和作用、研磨作用、軟水作用、消臭作用、吸湿作用、発泡作用
カイゼン後の効果（こんな効果があった）	従来の化学薬品洗剤のみの使用に比べ、重曹を併用することにより、洗剤購入費を6割削減することができました。 重曹は6キログラム入りを年間2袋使用することにより、化学薬品洗剤を年間約166本が100本に削減することができます。 【人体への影響】手あれの軽減、臭気による頭痛、気分が悪くなるなどの症状が解消されました。 【環境効果】従来の洗剤は化学物質や、油など、自然浄化では分解されにくい物質が多く含まれているため、洗剤をなるべく使わないことで、汚れた水を出さない、生活廃水を汚さないといった水質汚染防止や洗剤容器の排出を削減などに効果があると考えられます。

カイゼン活動について

1.カイゼン活動を通して、会社全体にどのような効果がありましたか？また、意外な効果はありましたか？

31期よりカイゼン活動を開始以来、経費の削減がなされています。特に事務用品などは不要になった部署から、必要な部署に譲渡するなどのカイゼンにより、現在、事務用品の新規購入をしなくてもよい状況になっています。意外な効果としては、カイゼン活動を開始してから2年、各部署のカイゼンリーダーによる積極的な推進活動により、カイゼン活動の「継続」ができていることです。このような活動は継続させること自体大変難しく、事務局でも課題でもありましたが、「継続」できていることが社員の意識カイゼン・現場力向上につながっていると感じています。

2.カイゼン活動の事務局として苦労・工夫した点は？

まずは、いかにみんなからカイゼン報告を出してもらうかに苦労しました。はじめは大きな金額で効果が出なければ、カイゼン報告することに抵抗があり、なかなか報告が上がりませんでした。どんなことでも現状より少しでも良くなれば「カイゼン」として報告してもらうことで、カイゼンの習慣を身につける、まさに社員の意識カイゼンをするために、「カイゼンの日」として、月に1度15分間のカイゼン報告書作成時間を設けました。

3.カイゼン活動の今後の課題は？

カイゼン活動を開始した31期に比べると32期はカイゼン報告件数が大幅に増えました。しかし、カイゼンできるテーマがまだまだ存在すると思います。報告件数を増やしつつ、前後の工程を意識した仕事の流れ全体をカイゼンできるような、よりレベルの高いカイゼン活動に繋げていくことが今後の課題です。

カイゼン活動事務局　打木主任

地域・社会貢献活動

美化清掃活動

実施者：新入社員13名　引率者：3名

2007年4月3日、地域貢献活動と新入社員教育として、新入社員13名(引率者3名)が本社周辺のゴミ拾いを行いました。

側溝や道路脇に空き缶やタバコの吸殻が多くみられました。なかには壊れた傘(3本)や松葉杖一式が捨てられていました。

清掃活動を通じて

「普段は意識せずに歩いている道路には、こんなにゴミがいっぱい落ちてるんだ！」、「なんでこんなにゴミが落ちているんだろう？誰が捨てるのだろう？」と口にしながら一生懸命、清掃活動を行いました。
清掃活動を通じて、「できることから、身近なところから」少しずつ地球に優しい環境づくりの大切さを感じました

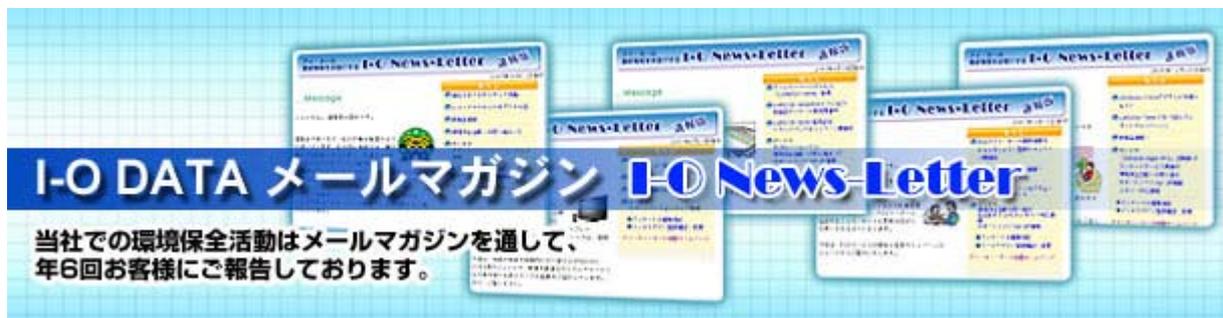
(財)緑の地球防衛基金への寄付

(財)緑の地球防衛基金に寄付されたメータースタンプ、古切手は業者を通じて収集家へ販売され、収益は植林に利用されます。
当社では各部署に回収箱を設置し、メータースタンプ、古切手の寄付をしました。
今後も古切手の回収と寄付を継続していきます。

さまざまなメータースタンプと古切手

各部署に設置された回収箱

環境コミュニケーション

お客様へメールマガジンでの環境保全活動報告

2006/9/4配信　○県民エコライフ大作戦への参加（2006/9/4から1週間）

県民エコライフ大作戦とは？
http://www.pref.ishikawa.jp/kankyo/pp/ecolife/kekka_index.html

本社のある石川県では地球温暖化を防ぐ国際的な約束である「京都議定書」の目標を達成するために9月4日から1週間にわたり、市町村や企業・団体など、県民が一丸となってエコライフを 実践する、いわばエコライフ強化週間。

2006/12/25配信　○「いしかわグリーン企業知事表彰」受賞

このたび当社は、「いしかわグリーン企業知事表彰」を受賞しました。これは石川県が、継続的な環境保全活動を行っている県内の企業を表彰する制度です。写真は12月25日の表彰式の模様です。当日は当社を含め、5つの企業が受賞しました。今後も、これまでの活動を継続し、地球環境にやさしい製品をつくり続けてまいります。
詳しくはコチラ（4.−1表彰受賞）

2007/2/15配信　○チーム・マイナス6%への参加

「チーム・マイナス6%」という言葉を聞いたことはありますか？
地球温暖化防止のため、世界が協力して作った京都議定書。これに掲げられている日本の目標は、CO2排出量6%の削減です。「チーム・マイナス6%」は、これを実現するための国民的プロジェクト。アイ・オーでは、会社はもちろん、社長や社員も続々と個人参加し、CO2排出削減を意識した活動を行っています。

「参加してみたい」と思った方は、チーム・マイナス6%のホームページにて、参加宣言を行ってください。世界に約束した日本の目標「マイナス6%」の達成に向けて活動して行きましょう。
個人のアクションプランは6つ。今日からすぐ実践できることばかりです。

Act1：温度調節で減らそう「冷房は28℃、暖房は20℃にしよう」
Act2：水道の使い方で減らそう「蛇口はこまめにしめよう」
Act3：自動車の使い方で減らそう「エコドライブをしよう」
Act4：商品の選び方で減らそう「エコ製品を選んで買おう」
Act5：買い物とごみで減らそう「過剰包装を断ろう」
Act6：電気の使い方で減らそう「コンセントからこまめに抜こう」
詳しくはコチラ（3.−1チーム・マイナス6%への参加・活動内容）

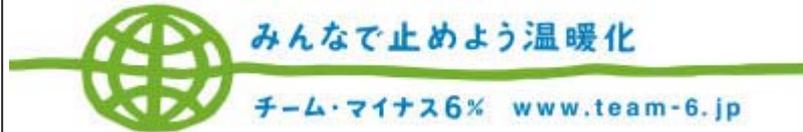
2007/4/19配信　○社内で古切手を収集し(財)緑の地球防衛基金への寄付

郵便物についている使用済み切手を集めると植林活動に役立つことはご存知ですか？
この1月、アイ・オーでは社内より収集した古切手約600gを(財)緑の地球防衛基金へ寄付いたしました。
これらは業者を通じて収集家へ販売され、収益は(わずかですが)苗木約2.4本分の植林に利用されま

す。

電話やメールが普及した現在、個人的な郵便の利用は減りましたが、ビジネスでは請求書の送付などでまだまだ健在。
読者の皆さんも環境保全を目的に、使用済み切手の収集を学校や勤務先へ提案してみませんか？

詳しくはコチラ（3.-3地域・社会貢献活動）

2007/6/21配信　○昨年に引き続き、今年もライトダウンキャンペーンに参加

環境省では温暖化防止のため、企業や家庭の電気を消していただくよう呼びかける「CO2削減/ライトダウンキャンペーン」を今年も実施します。期間は、昼間が最も長くなる6月22日(金・夏至)から24日(日)まで。アイ・オーもこのキャンペーンに賛同し、期間中は本社ビルのネオン看板を消灯いたします。

昨年の参加施設は39,845箇所。削減したCO2は50世帯以上もの年間排出量に相当します。
今年は、6万箇所以上の施設が参加を表明しています。読者のみなさまのご家庭や学校・勤務先でも電気を消して、地球温暖化をとめてみませんか。
詳しくはコチラ（3.-1チーム・マイナス6%への参加・活動内容）

※配信を希望される場合は、こちらのアドレスからお申し込みをお願いいたします。
https://wssl.iodata.jp/magz/

表彰受賞

平成18年いしかわグリーン企業知事表彰受賞

1.表彰の趣旨

環境マネジメントシステム(ISO14001、環境活動評価プログラム)を導入し環境保全活動に取り組んでおり、かつ、その成果が顕著であり他の模範となる企業を表彰することにより、県内企業の環境保全活動への取り組みに対する意識の高揚と促進を図る。

2.表彰式

(1)日時　平成18年12月25日(月)午前11時00分から

(2)場所　石川県庁(4階特別会議室)

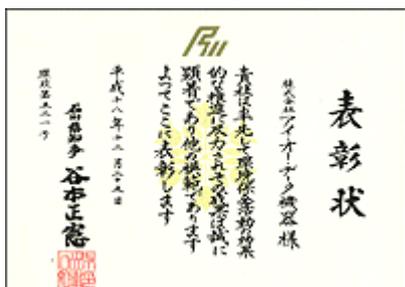
表彰状

株式会社アイ・オー・データ機器様

顕著であり他の模範であります

よってここに表彰します

平成十八年十二月二十五日

石川県知事　谷本正憲

谷本石川県知事(右)と細野社長

3.受賞にあたっての主な活動概要

(1) 分別回収の徹底やリサイクルルートの確立により、産業廃棄物の排出量が平成17年度は平成14年度に比べ84.4%削減

(2) 両面コピー・裏面利用の徹底や設計部門でのシステム導入によりコピー用紙使用量が、平成17年度は平成14年度に比べ20%削減

(3) 環境物品の購入促進により、平成17年度末での事務用品のグリーン購入率は92%

「いしかわグリーン企業知事表彰」について

制度は平成13年から始まり、表彰対象企業は次の基準を満たすことが必要でISO14001認証を取得して3年を経過し、又は環境活動評価プログラムに参加登録して3年を経過し、かつ更新をしていること。

次に掲げる環境保全活動取組項目について、自主的・積極的に取り組んでおり、今後、継続・改善していく計画があること。

廃棄物の減量化及びリサイクル

省資源・省エネルギー

グリーン購入

建築物のグリーン化

環境教育・学習

その他環境保全活動(環境保全社会貢献、環境会計導入、環境報告書作成、環境にやさしい商品開発等)過去5年間、環境保全に支障を及ぼす事故及び法令違反がないこと。

かなざわエコ大賞　奨励賞

1.表彰の趣旨

金沢商工会議所では、持続可能な経済社会への転換に積極的に取組んでいる事業所を顕彰致します。

2.表彰式

(1)日時　平成18年12月5日(月)午後1時00分から

(2)場所　金沢ニューグランドホテル

3.受賞理由

4年前にISO14001を取得し、低消費電力配慮製品など環境に配慮した製品作りに取り組み、市場に上梓している。さらにEC95条に準拠して、鉛、カドミウム等6物質を使用しない製品の開発や梱包材料の削減など、広い範囲で環境負荷低減に務めている。また、e-learningなどを利用した全社レベルでの徹底した環境教育の面でも環境配慮に向けた工夫がみられる。

今回の審査対象となった液晶ディスプレイの待機時モードでの節電を可能とする制御ソフトも環境活動の一環と位置付けられる。今後の製品開発成果にさらに期待したい。

表彰状

32期環境管理責任者の二上が社長の代理で表彰式に出席しました。

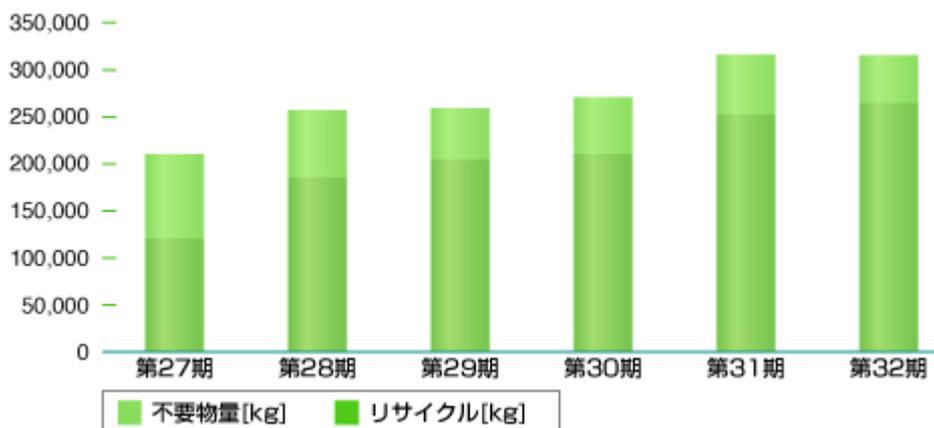
データシート

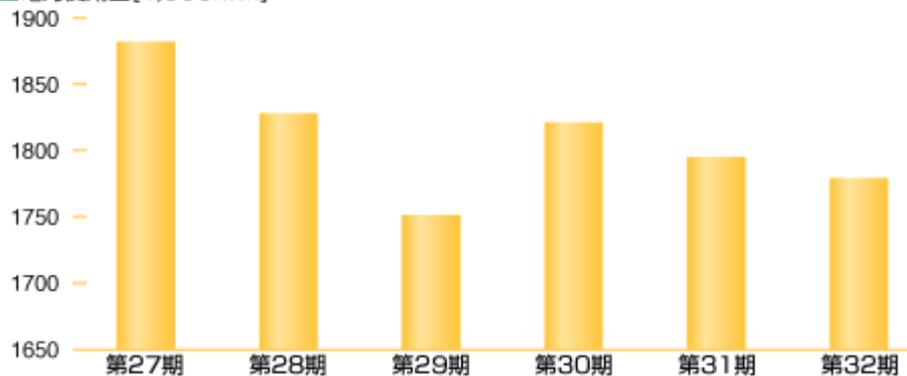
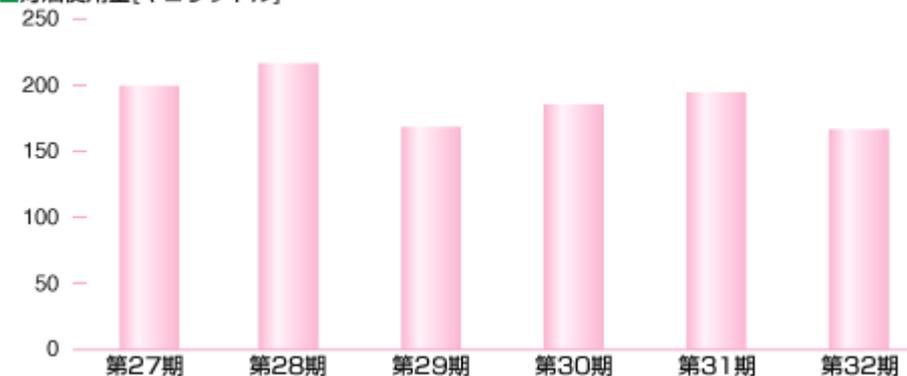
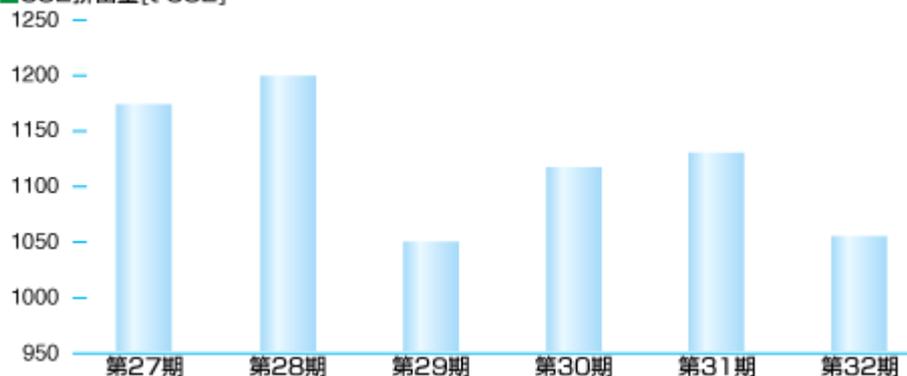
主要な環境パフォーマンス指標等の推移

報告対象期間 (期 = 7/1～6/30)		27期	28期	29期	30期	31期	32期
(廃棄物の削減)リサイクル量	kg	120,609	185,397	204,196	210,310	252,209	264,369
(廃棄物の削減)一般・産廃排出量	kg	89,860	71,790	55,153	60,638	63,603	51,096
(温室効果ガスの削減)電力使用量	nwh	1,882	1,828	1,751	1,821	1,795	1,779
(温室効果ガスの削減)灯油使用量	kl	200	217	169	186	195	167
(温室効果ガスの削減)CO_2排出量	t-CO_2	1,174	1,200	1,049	1,117	1,130	1,054
グリーン購入率<事務用品>	%	50%	59%	60%	76%	92%	90%

報告対象期間 (1年(4月～3月))		2005年4月～ 2006年3月	2006年4月～ 2007年3月
液晶ディスプレイ			
回収・リサイクル実績(事業系)	台	8	71
回収・リサイクル実績(家庭系)	台	179	416
資源再利用率	%	78.7	82.9

廃棄物(不要物)の削減

廃棄物(不要物)の削減		27期	28期	29期	30期	31期	32期
廃棄物・不要物の削減 (第26期比)	目標	10%	10%	15%	−	−	−
	結果	8%	26%	44%	−	−	−
リサイクル率	目標	−	−	−	75%	80%	80%
	結果	57%	72%	79%	78%	80%	84%
不要物量[kg]		89,860	71,790	55,153	60,638	63,603	51,096
リサイクル[kg]		12,0609	185,397	204,196	210,310	252,209	264,369
総排出量[kg]		210,469	257,307	259,349	270,948	315,812	315,465

温室効果ガスの削減

電力・灯油の削減		27期	28期	29期	30期	31期	32期
一人当たり使用量削減（第26期比）	目標	2%以上	6%以上				
	結果	7%	1.5%				
CO_2換算での削減（第27期比）	目標			2%	6%	6%	5%
	結果			10.6%	4.8%	3.8%	10.2%
電力使用量[1,000kwh]		1,882	1,828	1,751	1,821	1,795	1,779
灯油使用量[キロリットル]		200	217	169	186	195	167
CO_2排出量[t-CO_2]		1,174	1,200	1,049	1,117	1,130	1,054

その他

グリーン購入

事務用品の購入		27期	28期	29期	30期	31期	32期
グリーン購入率（全額）	目標	10%	55%	58%	70%	80%	90%
	結果	50%	59%	60%	76%	92%	90%

32期実績

対象品目	グリーン対象の定義	グリーン購入比率
文房具	各メーカーがエコロジー商品として販売しているもの	74%
封筒	再生紙で作られたもの	100%
トナー	リサイクルトナー	89%

製品回収リサイクルの実績

2005年度製品回収・リサイクルの実績(2005年4月～2006年3月)

液晶ディスプレイ	プラント搬入質量(t)	プラント搬入台数(台)	再資源化処理量(t)	資源再利用量(t)	資源再利用率(%)
事業系	0.043	8	0.043	0.034	78.7
家庭系	0.968	179	0.968	0.763	78.7
合計	1.011	187	1.011	0.797	78.7

プラント搬入質量、再資源化処理量、資源再利用量は、小数点以下3桁で切り捨て表示

2006年度製品回収・リサイクルの実績(2006年4月～2007年3月)

液晶ディスプレイ	プラント搬入質量(t)	プラント搬入台数(台)	再資源化処理量(t)	資源再利用量(t)	資源再利用率(%)
事業系	0.38	71	0.38	0.32	82.9
家庭系	2.25	416	2.25	1.87	82.9
合計	2.63	487	2.63	2.18	82.9

プラント搬入質量、再資源化処理量、資源再利用量は、小数点以下3桁で切り捨て表示